

主 題：死に打ち勝たれた救い主
聖書箇所：マルコの福音書 16章1-14節

イエス・キリストは私たちの身代わりに十字架にかかけられました。しかし、その死より敢然とよみがえって勝利されました。それは私たちに救いの確信と希望を与えるものです。「死んだ救い主はだれをも救い得ない」は事実です。イエスの復活を他の福音書の並行箇所を見ながら学んでゆきましょう。四つの区分で見てゆきます。

A. 墓へと向かう女性たち（ベタニヤからゴルゴダ） 1-2 節

女性たちはイエスのからだに油を塗るために香料を買いました。彼女たちはイエスが墓に納められたことを知っていました。土曜日の午後 6 時頃のことです。この女性たちはマグダラマリヤとヤコブの母マリヤ、サロメ、そしてヨハンナです。翌日、すなわち、日曜日の早朝、墓に着きました。ところが、墓の石が除かれていたのです。マタイ 28:2-4「…大きな地震が起こった。それは、主の使いが天から降りて来て、石をわきへころがして、その上にすわったからである。…番兵たちは、御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がり、」と、このような様子でした。

B. 墓での女性たち（ゴルゴダ） 3-7 節

○天使とのやりとり

マタイ 28:5-8「すると、御使いは女たちに言った。『恐れてはいけません。あなたがたが十字架につけられたイエスを捜しているのを、私は知っています。ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらん下さい。…お弟子たちにこのことを知らせなさい。』…弟子たちに知らせに走って行った。」「よみがえられました」の時制は、過去に起こったことの真実性を現わす時制です。実際によみがえった…と。女たちはイエスのみことばを思い出したのです。ルカ 24:5-8にはこのように書かれています。「恐ろしくなって、地面に顔を伏せていると、その人たちはこう言った。『あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話になったことを思い出さない。人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらなければならない、と言われたでしょう。』女たちはイエスのみことばを思い出した。」

○ペテロとヨハネがからの墓を訪れる

ルカ 24:9-11「そして、墓から戻って、十一弟子とそのほかの人たち全部に、一部始終を報告した。…ところが使徒たちにはこの話はたわごとと思われたので、彼らは女たちを信用しなかった。」、ヨハネ 20:2-10「それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛された、もうひとりの弟子とのところに来て、言った。『だれかが墓から主を取って行きました。主をどこに置いたのか、私たちにはわかりません。』そこでペテロともうひとりの弟子は外に出て来て、墓のほうへ行った。ふたりはいっしょに走ったが、もうひとりの弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。そして、からだをかがめてのぞき込み、亜麻布が置いてあるのを見たが、中にはいらなかった。シモン・ペテロも彼に続いて来て、墓にはいり、亜麻布が置いてあって、イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっているのを見た。そのとき、先に墓についたもうひとりの弟子もはいて来た。そして、見て、信じた。彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかったのである。それで、弟子たちはまた自分のところに帰って行った。」

天使はこの事実を弟子たちに告げなさいと女たちに言います。この記事はマルコの福音書にだけ書かれています。その理由はマルコはペテロに従っていたからです。この時、一番励ましを必要としていたのはペテロであることを、神は知っておられました。主を否定して落胆していたペテロに主は目をかけておられるのです。イエスの頭に巻かれていた布切れは巻かれたままになっていました。イエスがご自分で解かれたのではないことが分かります。そこから抜け出てこられたのです。ヨハネは自分の目で見て信じました。しかし、彼ら（ペテロとヨハネ）は聖書のことば（よみがえりについて）をまだ理解してはいませんでした。

C. 墓から離れる女性たち（ゴルゴダからエルサレム） 8 節

○マグダラのマリヤ

マルコ 16 : 8, 9 「女たちは、墓を出て、そこから逃げ去った。すっかり震え上がって、気も転倒していたからである。そしてだれにも何も言わなかった。恐ろしかったのである。〔さて、週の初めの日の朝早くによみがえったイエスは、まずマグダラのマリヤにご自分を現わされた。イエスは、以前に、この女から七つの悪霊を追い出されたのであった。〕 ヨハネ 20 : 11-18 「しかし、マリヤは外で墓のところにたたずんで泣いていた。そして、泣きながら、からだをかがめて墓の中をのぞき込んだ。すると、ふたりの御使いが、イエスのからだがかがれていた場所に、ひとりは頭のところに、ひとりは足のところに、白い衣をまもってすわっているのが見えた。彼らは彼女に言った。『なぜ泣いているのですか。』彼女は言った。『だれかが私の主を取って行きました。どこに置いたのか、私にはわからないのです。』彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。すると、イエスが立っておられるのを見た。しかし、彼女にはイエスであることがわからなかった。イエスは彼女に言われた。『なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。』彼女は、それを園の管理人だと思って言った。『あなたが、あの方を運んだのでしたら、どこに置いたのか教えてください。そうすれば私が引き取ります。』イエスは彼女に言われた。『マリヤ。』彼女は振り向いて、ヘブル語で、『ラボニ（すなわち、先生）。』とイエスに言った。イエスは彼女に言われた。『わたしにすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないからです。わたしの兄弟たちのところに行って、彼らに『わたしは、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに上る。』と告げなさい。』マグダラのマリヤは、行って、『私は主にお目にかかりました。』と言い、また、主が彼女にこれらのことを話されたと弟子たちに告げた。」

ラボニとは最も崇高な教師に対する敬称です。

○他の女性たちに現われたイエス（エルサレム）

マタイ 28 : 9, 10 「すると、イエスが彼女たちに出会って、『おはよう。』と言われた。彼女たちは近寄って御足を抱いてイエスを拝んだ。すると、イエスは言われた。『恐れてはいけません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えるのです。』」

イエスは最初に女性たちに現われました。それは女性たちはイエスを愛していたから、このすばらしい特権に与ったのです。イエスへの愛を行動で現わした女性たちです。

○兵士たちによるユダヤ人指導者たちへの報告（エルサレム）

マタイ 28 : 11-15 「女たちが行き着かないうちに、もう、数人の番兵が都に来て、起こった事を全部、祭司長たちに報告した。そこで、祭司長たちは民の長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、こう言った。『夜、私たちが眠っている間に、弟子たちがやって来て、イエスを盗んで行った。』と言うのだ。もし、このことが総督の耳にはいっても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」そこで、彼らは金をもらって、指図されたとおりにした。それで、この話が広くユダヤ人の間に広まって今日に及んでいる。」と、兵士たちは金をもらって偽りの証言をするのです。

D. 墓からよみがえられたイエス 9-14 節

○マグダラのマリヤに現われたイエス 9-11 節

イエスはまず、マグダラのマリヤに現われました。このマルコ 16 : 9-20 はギリシャ語の写本には欠けていますが、他の福音書に書かれてあることと同じですから、真実な記述と受け取ります。

二番目に他の女性たちに現われました。そして、三番目にペテロに現われたのです。ルカ 24 : 34 「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現わされた。」、1 コリント 15 : 5 「また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。」、そして4番目に、

○エマオ途上の二人の弟子に現われたイエス 12 節, 13 節

「その後、彼らのうちのふたりがいなかのほうへ歩いていたり、イエスは別の姿でご自分を現わされた。」、ルカ 24 : 13-32 にはその様子が詳しく記されています。彼らは近づいていっしょに歩き出したイエスを初めはイエスだとは分かりませんでした。彼らはイエスの十字架と墓に葬られたこと、しかし、墓にはイエスが見当たらなかったことを暗い表情で話すのです。イエスは「ああ、愚かな人たち。…」と、聖書全体からご自分について書かれてある事がらを説き明かされました。その後、食卓で食事を祝福されたとき、やっと彼らの目が開かれイエスだと分かるのです。彼らはイエスが話されていた間、「心はうちに燃えていた」のです。

彼らは他の弟子へ報告します。エルサレムでのことです。13 節「そこでこのふたりも、残りの人たちのところに行ってこれを知らせたが、彼らはふたりの話も信じなかった。」、ルカ 24 : 33-35 「すぐさまふた

りは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、『ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現わされた。』と言っていた。彼らも、道であったいろいろなことや、パンを裂かれたときにイエスだとわかった次第を話した。」

○10 人の弟子たちの所へ現われたイエス (エルサレム) 14 節

「しかしそれから後になって、イエスは、その十一人が食卓に着いているところに現われて、…」ルカ 24 : 36-43「これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真中に立たれた。彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。」それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか。」と言われた。それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。」、ヨハネ 20 : 19-25「その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らといっしょにいなかった。それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た。」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」と言った。」、このとき、トマスはそこにいなかったのです。

ここまでは日曜日の出来事です。

○11 人の弟子たちの所に現われたイエス (エルサレム)

ヨハネ 20 : 26-31「八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らといっしょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って『平安があなたがたにあるように。』と言われた。それからトマスに言われた。『あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。』トマスは答えてイエスに言った。『私の主。私の神。』イエスは彼に言われた。『あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。』この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行なわれた。しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」

⇒これらのことから私たちが学ぶべきことは、

1. イエスのよみがえりが事実であること

(1)それは弟子たちの証言によって明らかです。

エルサレムから各地に散っていった弟子たちは、このよみがえりのイエスを力強く証しました。皇帝ネロによるクリスチャン迫害が実に 250 年間も続き、数百万人が殺されました。それは彼らがイエスの復活を告げたからです。ローマにあるカタコンブに今もそれを知ることができます。よみがえりのイエスによって自分たちも必ずよみがえるのだと。これが迫害の中にある彼らの希望だったのです。1テサロニケ 4 : 13-17 にパウロがこのように記しています。「眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずで、私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。」、この事実を彼らは語らないわけにはいかなかったのです！！ これは私たちにとっても同様です。

(2)ローマ兵の目撃した事実によって

彼らはその事実を上司に告げました。

(3) クリスマスは日曜日に礼拝を捧げるために集まります。

それはイエスのよみがえりの日だからです。

(4) 新約聖書の存在が示します。

(5) 教会の存在が示します。

教会は常にイエスの十字架と復活を告げる存在です。

2. イエスがこの世に来られた目的

ローマ 4:25 「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。」

イエスの死の原因は私たちの罪のためです。その身代わりの死によって、私たちの罪は赦され聖いものとされた、それが義と認められるということです。